

学番	5	新潟西高等学校
----	---	---------

令和8年度

学校自己評価表（計画）

学校運営計画			
学校運営方針	「立志、叡智、敬愛」を旨に、生徒の夢の実現に向け豊かな人間性を育成する。また、社会の諸問題を理解して解決に向け自ら行動できる力を養うとともに、さまざまな幸せを希求するために行動、実践できる力を養う。		
三つの方針(スクール・ポリシー)			
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	明浄正直と青藍訓を達成するため、〔立志〕・〔叡智〕・〔敬愛〕の育成を目指す。 〔立志〕 自らの使命と役割を自覚し、自身の将来を決定できる力 〔叡智〕 知性を身に付け、自学自習や進取創造する態度 〔敬愛〕 自他を尊重し、個性と多様性を認め合える心		
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	全日制普通科高等学校として、生徒のキャリア意識を養い、希望進路の実現を目指すとともに、広い視野と穏やかで根気強い心を育てるため、以下の教育活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の高い生徒には学励クラスとして学習レベルを考慮した授業を行う。 ・医療従事を目指す生徒には、医療専攻生として県内の医療機関と連携しながら、高い倫理観や強い責任感を育む講演・実習を行う。 ・運動部や文化部活動・生徒会行事の活性化により、社会性を育成する取り組みを行う。 ・特別活動や探究活動をとおして、地域を理解し、社会に貢献する意識を育むとともに、自己肯定感を醸成する取り組みを行う。 		
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	知・情・意・体の調和を目指す教育活動に取り組むため、以下のような生徒を求める。 <ul style="list-style-type: none"> ・目の前の課題に真剣に取り組み、切磋琢磨する生徒 ・高校生としての品格を身に付けるために、日々努力する生徒 ・自他を尊重し、協力してものごとに取り組む生徒 ・社会や地域に貢献したいという意欲がある生徒 		
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標	
本年度は、猛暑がつづいていたが、暑熱対策として、冷房のある教室で放送に切り替えるなど臨機応変に対応し、授業の環境を確保した。 創立50周年を迎え、記念行事や事業を行う課程でPTA、後援会、同窓会、地域の方々から多くの協力をいただいた。この行事・事業で培った関係をさらに向上させ、次の周年行事・事業に向かいたい。また、生徒の教育活動にもよい影響がでることを期待したい。 学習については、評価規程をはじめ、考査に関する規程などいくつかの重要な規定について見直し、改正した。進	教科指導力を高めて、生徒の学力向上を図る。	授業改善を推進する 基礎学力向上と応用力の育成を図る	
	基本的な生活習慣の確立を促すとともに、規範意識と社会性を育成する。	豊かな人間性を育成し、生徒の進路志望を実現させる。	生活のリズムを整え、授業に臨めるよう指導する。
			社会の一員としての自覚を促し、マナーやルールを守る規則正しい生活を送れるよう指導する。
			望ましい人生観・職業観・勤労観を育成する。 生徒の適性にあつた進路選択を指導する。 生徒及び保護者の進路意識啓発に努める。
	行事と部活動を充実させるとともに、施設を整備し、生徒の健康管理に努め、地域・保護者との連携・協働を行うことによって、学校全体の活性化を図る。		生徒会行事と部活動を充実させる。
			図書館の利用拡大に努める。 生徒の健康管理と学校施設の整備と美化に努め、学習環境を整える。

路指導面では進路計画に基づき、進路行事・講習・進路情報の発信ができた。学力向上のために学習習慣を確立し、学習時間を確保することが必要である。大学入試が多様化する中で、それぞれの特色を生かした入学方法で進学する生徒が増えている。これらの状況にも学校として組織的に対応したい。	50周年記念事業で培った関係をさらによいものにし、後援会や校外の外部団体と連携して、生徒の学校生活を充実させる。	P T Aと後援会活動との協働を図る。	
	教職員の働き方改革を推進する。教職員におけるワーク・ライフ・バランスの浸透を図る。	定時退庁日における定時退庁の徹底を図る。 業務の削減・工夫等、見直しを進める。勤務時間のマネジメントを行う。働き方に係る意識の向上を図る。	
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
教科指導力の向上と生徒の学力向上	授業改善を積極的に推進する。	授業を中心に、教育活動全般を通じて、生徒の「主体的に学びに向かう姿勢」を育成する。電子黒板やタブレット等を有効活用する。	
		授業公開や生徒の自己評価アンケート、教員の授業評価アンケート等を積極的に行い、これらを通して、各教員が授業改善に努め、指導力向上を図る。	
基礎学力向上と応用力の育成を図り、主体的、対話的で深い学びの実践に努める。		教員間で授業の相互観察を推進するとともに、教科担当者の連絡を密にし、組織として教科指導スキルを高める。	
		電子黒板などの ICT 機器や Google Workspace を積極的に活用することで、生徒の主体的な学びと教員との対話的な授業を実践し、そのような授業をするために教員の授業改善を促進する。	
基本的な生活習慣の確立と規範意識・社会性の育成	学習環境を整え、授業に適した雰囲気作りを進める。	毎朝生徒玄関で立哨指導を行う。	
		学期ごとにブルーカードの集計を行い、改善を図る。	
		スマートフォン等の持ち込みは許可したが、校地内での使用は一切禁止であることを生徒及び教員に周知徹底し、同一基準で指導を行う。	
		本校の制服を正しく着用するよう指導する。	
		貴重品・私物・自転車の自己管理の徹底を図るため、個人ロッカーの施錠、自転車のツーロック実施を徹底させる。	
		自ら挨拶することや外来者への会釈・声かけができるよう指導する。	
いじめ防止及びその対処に努める。	いじめ未然防止のため日頃から生徒の様子に注意を払う。アンケート等を通じ早期発見に努め、事案発生時には迅速・適切に対応する。		
豊かな人間性の育成と生徒の進路志望の達成	望ましい人生観・職業観・勤労観を育成する。	進路行事（進路講演会・進路ガイダンス・外部講師による講演会・大学見学・大学講義体験、等）を1～3学年合計で10回以上行い、進路やキャリア形成に対する意識啓発を行う。	
		平日講習及び長期休業中の講習を計画に沿って実施する。講習履行率の100%達成を目指す。	
		学級担任・副担任との個人面談・保護者懇談・三者面談を1人の生徒につき計3回以上実施する。	
	生徒の適性にあった進路選択を指導する。	生徒や教員が利用しやすい進路指導室・進路資料室づくりをする。	
	「学びの基礎診断・測定ツール」や外部模擬試験を有効活用し、生徒一人ひとりや学年全体にフィードバックを行う。		
	生徒の平日の平均家庭学習時間を1・2年生については1時間以上、3年生の1学期については1.5時間以上になるように指導する。		

	生徒及び保護者の進路意識啓発に努める。	『進路の手引き』の「資料編」と「活用編」を作成し、LHRや総合的な探究の時間等で、冊子を活用した活動の時間を1～3学年合計で10回以上設ける。 学年PTAや学年通信をつうじて、生徒・保護者に対して進路情報を発信する。1～3学年合計で20回以上行う。 卒業生合格体験会を実施する。		
	優秀な医療人の育成に努める	医療専攻プログラムにて医療講演会と病院見学を合計で10回以上実施する。		
行事と部活動の充実、施設整備、生徒健康管理、保護者との連携による全体の活性化	生徒会行事と部活動の充実を図る。	生徒会行事や部活動を通じて社会性を育成し、同じ目標をもつ生徒同士が人間的に成長するように指導する。		
		生徒会行事や部活動を充実させ、生徒の積極性や意欲を高める。		
		生徒会活動を通して、全校生徒が一致団結するように、企画・準備・運営に力を注ぐ。また、新しい発想を積極的に取り入れ、次世代につながる行事を全校で協力し作り上げる。		
	図書館の利用拡大を図る。	図書館利用のマナー指導を徹底する。		
		広報紙を定期的に発行して、読者層の開拓や利用者の拡大を図る。		
		図書館利用の充実を図るため、必要な支援を行う。		
	生徒の健康管理と学校施設の整備と美化に努め学習環境を整える。	生徒の健康診断、身体測定を円滑に実施する。		
		生徒の体調不良や怪我に対する適切な対応に努める。		
清掃計画、避難訓練、施設設備の整備・点検を着実に実施し、快適で安全・安心な学校生活と学習環境を維持する。				
PTAと後援会活動と協働を図る。	HP等を活用してPR活動を強化するとともに、PTA総会と、研修旅行、学年活動への多数の保護者参加を目指す。			
	創立50周年事業で培った信頼関係をさらに高め、後援会活動への理解と連携を強化し、保護者全員の加入を目指す。			
教職員の働き方改革を推進する 教職員におけるワーク・ライフ・バランスの浸透を図る。	閉庁日、定時退庁日の確実な実施 勤務時間のマネジメントの実施	時間外の在校等時間の上限、1月45時間以内、1年360時間以内を実現するため、職員朝会等を通じて該当日を確実に周知し、閉庁日、定時退庁日の確実な実施に努める。また、勤務時間のマネジメントを行うとともに、働き方改革に対する職員の意識の向上に努め、業務の削減、効率化についても検討する。		
	業務の削減・工夫等、見直しを進める。	運営委員会等を通じて行事の精選や業務の整理を検討し、関係各部署とも連携しながら業務の削減・工夫・見直しを図る。		
学年段階に応じた指導の充実	1年生に対する指導の充実を図る。	朝学習を通して、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。学習と部活動の両立を勧め、総合的な人間力の育成を目指す。(叡智の育成)		
		コミュニケーション能力の醸成のために、集会や行事など学校生活全般において、話を聞く態度と能力の向上・ICT利用等による資料の可視化・意思伝達できる場面を増やす。(立志の育成)		
		進路講演会や上級学校見学、探究活動を通して、進路への高い目標と広い視野を持たせる。(立志の育成)		
		学年通信や学年PTAを通じて、保護者への進路情報の提供と、学年の方針、生徒の様子などについてICTを活用しながら情報発信に努める。		
		面談等で丁寧な生徒把握に努め、情報を学年団で共有して全員で学年全体の生徒指導にあたることで、いじめの兆候を見逃さない。		
		挨拶の励行や返事をしっかりさせることなど、対人関係の基本であるマナーや規範意識の向上を促す。(敬愛の育成)		

成果	2年生に対する指導の充実を図る。	朝学習や講習をとおして、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。学習と部活動の両立を勧め、総合的な人間力の育成を目指す。また、平日の家庭学習時間を平均1時間以上を目指す。(学力向上、学業と部活動の両立)			
		コミュニケーション能力の醸成のために、集会や行事など学校生活全般において、話を聞く態度と能力の向上・ICT利用等による資料の可視化・意思伝達できる場面を増やす。(自立)			
		模擬試験指導や小論文指導、探究活動、修学旅行等をとおして、広い視野と高い進路意識を醸成し、卒業後の進路実現に向けた基盤作りをする。			
		学年通信や進路便り、学年PTAを通じて、保護者への進路情報の提供および学年の方針、生徒の様子についてICTを活用しながら情報発信に努める。			
		意思伝達や挨拶の励行、時間厳守の意識を向上させることで、対人関係のスムーズさを構築するとともに、自ら24時間のコーディネイトができるよう、マナーや規範意識を醸成させる(自律)			
		面談等で丁寧な生徒把握に努めるとともに、SCと情報共有を密に図り、情報を学年団で共有し学年団全体で学年の生徒指導にあたることで、いじめや不登校の兆候を見逃さない。			
		朝学習や各種講習を通じ、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。学習と部活動の両立を勧め、総合的な人間力の育成を目指す。小論文指導、探究活動を実施する中で、読解力や表現力を向上させる〔叡智〕			
	3年生に対する指導の充実を図る。	学習と授業の重要性を認識させ、平日2時間以上の家庭学習を目指す。平日放課後講習や長期休業講習を充実させる。〔叡智〕			
		早い段階で進路目標を明確し、模擬試験の効果的利用とその前後の指導、小論文指導、面接指導を企画・実施する。〔立志〕			
		意思伝達や挨拶の励行、物品の管理、身だしなみ、時間厳守の意識を向上させ、対人関係をスムーズに構築し、何事も自ら見通しを持ってコーディネイトできるよう、マナーや規範意識を醸成させる。〔敬愛〕			
		個別面談等で生徒把握を丁寧に行い、SCや特別支援と情報共有を密に図ることで、学年全体で情報共有と生徒の指導にあたる。特にいじめや不登校の兆候を見逃さず、いじめや差別のない学級・学年作りを目指す。〔敬愛〕			
		学年便りや進路便り、学年PTAを通じ、保護者へ進路情報の提供および学年の方針、生徒の様子などをICTを活用しながら情報発信を行う。〔敬愛〕			
			総合評価		